

## 平成30年度事業計画書

平成30年2月27日

公益財団法人 名勝依水園・寧楽美術館

平成30年度（平成30年4月1日～平成31年3月31日）事業計画の概要

依水園の庭園事業では、文化庁他の補助金による14年間の整備事業が、一昨年度の平成28年度で完了し、平成29年度からはこの修復整備された庭園を自らの費用で維持しながら公開を行っている。増加を続けていた海外からの入園客は、平成29年度には、過半に達し、旅行サイトの評価では、外国人を含め高い評価を獲得している。平成30年度も引き続いて公開を続け、評価を維持していく。またこの状態を永く維持するため、平成27年度より開始した庭園整備特別準備金の積立を、今年度以降も継続していく。

美術館事業では、前期展として4月1日(日)から9月10日(月)まで、開園60周年記念「依水園主人 關藤次郎の軌跡」を開催する。

依水園の財団法人としての一般公開から本年は60年を迎える。これを記念して、明治時代に現在の依水園を作り上げた關藤次郎(1864-1931)の功績を紹介するはじめての回顧展となる。幼少より和歌・漢詩に親しみ、さらに茶道・絵画へと数寄の世界を極め、明治30年代からは別邸として水門町に庭園・建物を次々に増築し依水園と命名して多くの文化人との交流の場とした翁を、好み道具や、当時の依水園の様相を通して紹介する。

後期展は10月1日(月)より3月10日(日)まで「「翡色と象嵌の高麗青磁・型押し of 李朝粉青沙器(仮題)」を開催する。今年は高麗王朝建国から1100周年を迎える。これを記念して当館、大阪市立東洋陶磁美術館、大和文華館の3館の合同企画として各美術館が今秋に高麗王朝にちなむ展示会を予定しており、その一環である。当館は翡色と、細やかな象嵌の技法を施した文様に焦点をあて、茶碗をはじめとする高麗青磁を紹介する。

毎年実施している、田能村竹田筆、重要文化財『亦復一楽帖』の一図ごとの特別陳列に関しては、4月1日より14日まで第十図「観古寶劍」を、11月には第十一図「蘭竹」を陳列する。

平成20年5月より毎年開催している、「依水園文化講演会」を、今年度も2回開催の予定である。春は、前期展にちなみ「依水園と翠門翁」というテーマで關藤次郎に関して岡本彰夫氏(奈良県立大学客員教授/宇賀志屋文庫庫長)が講演する。

従来当財団には、庭園および美術館収蔵品を紹介するガイドブック的な書物が存在しなかったが、今年6月(後述の開園記念日)に、これを初めて発行し、主に当園内で販売する(「依水園庭園と寧楽美術館の名品(仮題)」。写真を中心に日本語と英語の説明を記載し、入園の記念として購入してもらえることを想定している。

平成27年度より開始した、6月1日の開園記念日を割引料金とする企画を今年度も継続する。また今年度も昨年、一昨年度につづき、この日に当財団敷地内茶室の三秀亭で、

煎茶道を入園客に体験してもらおうイベントを企画する。これは三秀亭が本来煎茶道の茶室であったことに基づくものである。

平成25年より例年2月に奈良市主催で開催されている珠光茶会開催期間中、園内の茶室を公開する「依水園お茶室見学会」を開催している。通常公開していない建物内部を見学できる機会として好評を得ているので、これを今年度も開催する。

平成29年度に奈良新聞社が主催する、「奈良工芸の粋」展の会場として当園の美術館、母屋、茶室等を貸出し、奈良漆器、赤膚焼、一刀彫等の奈良の工芸品の展示、販売、茶席開設に協力した。奈良工芸の発展を支援するため、今年度も協力する。

庭師の人材育成の為に開講している「庭園大研究会」を今年度も継続して開催する。

今後も公益財団法人として公開収入の増額を目指すとともに、魅力ある観光スポットとして前向きに企画をたてて大勢の入園・入館者に喜んでいただけるように努めたい。

以上